

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392000234		
法人名	社会福祉法人 一誠福社会		
事業所名	グループホームくらら (Aユニット)		
所在地	愛知県豊橋市川崎町216-2		
自己評価作成日	平成25年7月25日	評価結果市町村受理日	平成26年1月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigvosvoCd=2392000234-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6-5かえでビル2F		
訪問調査日	平成25年11月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>1. 私たちは、入居者の皆さんがいつまでも笑顔で暮らせる家になるようにお手伝いします。2. 私たちは、入居者の皆さんの生活習慣を大切にしながら、3S(Smile,Speed,Smart)の精神で接していきます。3. 私たちは、入居者の皆さんの尊厳をいつまでも大切にしていきます。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>田畑が広がる閑静な住宅地に位置し、特別養護老人ホームを併設した2階に事業所がある。開設2年目を迎える事業所は、広々としたロビーを挟んで二つのユニットが並び、散歩を楽しめる回廊のテラスがある。室内は落ち着いた色彩で統一され格調高い造りとなっている。ロビーでは喫茶店が営まれたりイベントの会場にもなり入居者の憩いの場ともなっている。散歩や買い物を楽しんだり洗濯物干しや取り込み、食事の手伝いなど入居者の力が日常生活に活かされ生きいきとした表情をしている。理念に基づいて「支援」と「介護」の意義を問いながら、管理者はじめ職員は、日々のケアについて熱心に話し合い、一人ひとりに合わせた支援に心がけている。入居者は行き届いたケアに支えられのんびりと時を過ごしている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1) 全ユニットに掲示してある。 2) 定期的に朝礼で理念を再確認している。	事業所の理念は事務室に掲示されている。月1回のミーティングや毎日の朝礼で理念を読み合せ、確認して共有を図り、日々のケアに活かせるように勤めている。	理念の理解を深め、職員と共有し、日々のケアに繋がるように入居者、家族、来訪者にもわかるようなところに掲示するよう期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	1) 散歩時にゴミ拾いをしている。 2) 地域主催の行事に職員と共に参加している。	町内会に加入して、回覧板等で地域の情報を得ている。散歩で挨拶を交わしたり、近くの畑のサクランボ狩りの誘いもある。お祭りや文化祭の見学をしたり、春と秋の交通安全週間では、地域の人と一緒に啓蒙活動に参加している。今後、文化祭には入居者の作品の出品も検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域での地震や津波等、防災の避難所になっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族(代表)、入居者(代表)、自治会長、介護相談員、地域包括支援センター担当者に参加してもらい、2ヶ月に一度開催している。写真など紹介し、意見交換を行っている。	2ヶ月毎に開催し、現状報告や意見交換をし運営に反映している。議事録は、職員には回覧し会議の内容の共有を図っているが、参加していない家族には報告はしていない。	家族全世帯に会議の案内や会議録を出すなど多くの家族が参加し、意見や要望が運営に反映できるような仕組み作りを望みたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員が毎月の状況確認を行っている。また、運営推進会議にも出席してもらっている。	介護相談員の訪問のときに気づいたことや、話し合ったことを市に報告して連携を図っている。事業所からは月1回、介護認定申請等で市を訪れたり、電話等で連絡を取り協力関係が継続されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	1) 対象となる具体的な行為を理解している。 2) 日中(10時~19時)は施錠はしていません。 3) 身体拘束委員会を開催している。	法人として、併設事業所と合同で「手引き」に基づいて研修をして理解を深めている。日々のケアの中で、スピーチロック等を含む拘束について注意し合い、気づいたことは申し送りノートに記録をして回覧し、職員間で共有をして、拘束のないケアに心がけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	1) 関連する研修に積極的に参加するようにしている。 2) 常に管理者と職員間でコミュニケーションをとり、ケアの内容を確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	関連する研修に参加する様努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結の際には十分に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	1) 運営推進会議を行っている。 2) 家族とのコミュニケーションを良好に保つよう努めている。	入居者からは日々のケアの中で聞き取りをし、家族からは面会時に話を聞くようにしている。意見箱の設置やホーム便りはなく、自由に意見を反映する場が少ない。事業所での行事は「入居者のために行う」と位置づけしているため家族の参加はなく意見を聞く機会がない。	入居者にとって事業所は新たな家であり、家族の協力や意見の反映は必要と考える。事業所独自のホーム便りの発行や、意見箱の設置をし、多くの意見や意向を出せるような取り組みを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1) 職種別ミーティングならびに会議、委員会で職員の意見を吸い上げている。 2) “案件ノート”というものに、意見やアイデアを記入してもらい、定期的及び随時ミーティングを行っている。	職員の意見や提案は、ミーティング、引き継ぎや日々の業務の中で自由に発言する機会があり、管理者は必要に応じて運営に活かしている。また、「案件ノート」を介して、意見や要望にコメントを記入して検討をし、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	1) 人事考課を行っている。 2) 業務の一環として各種研修へ参加を促している。 3) 希望する日に休みを取れる様、配慮して勤務シフトを作成している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	1) 専門知識向上の為、施設内で各種試験を実施している。 2) 各種研修への参加を後援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人内にグループホームが3施設あるため、情報の共有をしてサービス向上に繋げていけるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ゆっくりと会話をする時間を作り、不安なことや要望などを聞き出すようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に時間をかけて面談している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	老健、デイサービスなどのサービスについて説明し、グループホームが最善策であるか、検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居前の自立して生活していた頃の状態を把握し、食事の準備や洗濯など生活動作に関わる様に配慮した声掛けを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者と家族の関係に立ち入らぬよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出など、家族が来れない時は替りに行くようにしている。	本人の希望で、自宅近くに出かけたり海の見える展望台までドライブをしたり、墓参の付き添いもして思いを大切にしている。散歩の時には、コンビニに寄って買い物を楽しんだり、初詣では地域の方から甘酒の振舞があり、新しい馴染みが出来つつある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話が生まれやすい様に職員が仲立ちするなどして配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	地域行事へ参加し、顔を合わせられる様努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の時間を多くとり、その中から聞き出せるよう努めている。	入居時に本人や家族から情報を得たり、日常のケアでかすかな表情や表現から意向をくみ取る努力をしている。困難な場合は家族と相談をして検討している。家族の協力を得て、「自分史」作りをして、その中で思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人及び家族に聞き取りし、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1)調理、掃除などの日常生活を行ってもらいながら動作を確認している。 2)記録を基にカンファレンスを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	こまめに家族や主治医と連絡を取るようにし、現状に即した介護計画を作成している。	本人の意見を含めて、家族や職員、主治医と相談しながら管理者とケアマネージャーが計画を立てている。担当制ではないので、職員全員が計画を確認している。3ヵ月毎の見直しのほかに、月1回のミーティングでカンファレンスをして状態に合ったケアに努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を基に、カンファレンスを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	業務をマニュアル化せず、柔軟に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の活動や行事に積極的に参加する様努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	馴染みのあるかかりつけ医院に受診している。また、各々のかかりつけ医とは詳細な情報交換が出来る様努めている。	家族の協力のもとに、入居者の馴染みの主治医で受診をしているが、職員が付き添う場合もある。受診報告書で状態をチェックして申し送りノートに記入し、情報の共有を図っている。歯科、整形外科等は協力医で受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう、看護師に情報を提供し、アドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。その際、家族の希望をたずねている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	1)入居時に、重度化した際の家族の希望をたずねている。 2)実際に重度化の兆候が出現した場合にも再度、家族と相談している。 3)施設で出来る事を十分に説明している。	法人として終末期対応を考えているので、職員には事業所として出来ること、出来ないこと等の確認をしながら、家族にも説明をしている。アンケートで重度化に向けての希望の確認をして、状態を見ながら見直しをしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に備えて、緊急対応マニュアルを作成し、職員に周知させている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	1)防災訓練を行っている。 2)運営推進会議でも、災害時の相互支援について話し合っている。	避難訓練は年2回実施している。火災、地震、津波等を想定し、その日の勤務者でどのように対応できるか検討しながら実施しているが、消防署の支援はない。地域援助隊が支援してくれる体制がある。米の備蓄はしているが水等その他の備蓄がない。	現状の防災対策や訓練状況などについて消防署の指導を仰ぎ、より安全な避難訓練が出来るような協力体制づくりを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特にスピーチロックに注意し、生活空間内で大声を出さない様、心掛けている。	呼称は、入居時に本人や家族から確認をし決めている。入居者本位に考え、不快になるようなことはしないように心がけている。日常のケアの中で気がつけば指導をして入居者の誇りを傷つけないような配慮をしている。入浴やトイレは、希望があれば同姓介助にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションをとり、傾聴することで、ニーズを引き出すように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一律の介護を行わないようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	1) 日々、着る物は本人の希望を聞いて選んでいる。 2) ネイルアートなど今の流行も取り入れている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	作業が出来る出来ないに関わらず、下準備から参加してもらえる様努めている。	業者委託のため食材が届けられ、事業所で調理している。入居者の状態により代替食やミキサー食にも対応している。季節毎の行事食が用意されたり、事業所のイベントの時は希望の食事がでる。外出をしてお弁当を楽しんだり、外食をするときもある。味付け、配膳、後片付け、食器洗い等出来る人が声をかけあって行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1) 食事摂取量及び水分補給量をグラフで確認している。2) 個別の注意点も把握し、支援している。3) 食欲がない時などは高カロリー食を提供するなどして一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケア、歯磨きの援助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1) 個々の排泄パターンを把握した声掛け、定期誘導を行っている。 2) 出来る限り本人が自立できる環境が作れる様、職員間で話し合い決定している。	本人が行きたいときにトイレで排泄できるような支援に心がけ、一人ひとりに沿ったケアをしている。個々の排泄パターンを把握したり、表情や態度から排泄支援している。全員リハビリパンツなので、運動をしたり散歩等しながら今の状態の確保に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1) 下剤に頼る前に運動を促している。 2) 青汁、プルーンを提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	個浴を原則にして職員は見守り、歌が好きな人には音楽を流して入浴を楽しんでいる。毎日午前、午後、夕食後等の時間に本人の希望で入浴ができる。嫌がる方にもタイミングを見て声かけをし、2日に1回以上入浴出来るようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1) 日中は体を動かせる場を作り、夜間は安眠できるように努めている。 2) 就寝時間は各々の生活リズムに任せている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1) 処方箋及び薬のデータをファイルに挟み、都度確認している。 2) 副作用による変化がないか、観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1) 炊事、掃除など役割を持ってもらうことで張り合いを感じてもらえる様支援している。 2) 嗜好品、趣味の活動を行える様支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	1) 希望者とは毎日散歩するようにしている。 2) 日常的に行きたい場所のアンケートをとり、順次叶えている。	希望する入居者とは、毎日事業所周辺を散歩したり、コンビニに買い物に出かけたりしている。アンケートで出かけたところの把握に努め、季節毎の花見、手筒花火の見学、動物園、墓参等に出かけている。時には家族が付き添うこともある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布の持参も認めている。金銭管理も行っている。こづかい管理も行っており、外出時には小遣いをもっていく。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者からの希望があれば対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1)入居者間の相関関係を考慮した座席配置をしている。 2)四季折々の花などを活けて季節感を演出している。	掃除の行き届いた広い廊下やリビング、大きな窓からは日が差し、明るく開放感がある。テラスでは、洗濯物を干す人や、散歩を楽しむ人が行きかっていたり、喫煙を楽しむ場もある。食卓やソファコーナーが広く取られゆったりとしている。入居者の趣味の作品が掲示されていたり、季節の花が飾られて居心地の良い空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1)仲間単位で過ごせる様に留意している。 2)独りになりたい方は部屋で過ごす事を勧めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく御自宅で使用された物品で居室が埋まる様提案している。	エアコン、ベッド、レースのカーテンが事業所の備え付けになっている。仏壇を持ち込んでいる入居者もいる。使い慣れた引き出し筆笥の上に家族の写真飾ったり、好みのカーテンをかけて自分らしさを醸し出して居心地のよい部屋にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	行動を束縛せず、建物内を自由に動いてもらっている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392000234		
法人名	社会福祉法人 一誠福社会		
事業所名	グループホームくらら (Bユニット)		
所在地	愛知県豊橋市川崎町216-2		
自己評価作成日	平成25年7月25日	評価結果市町村受理日	平成26年1月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigvosvoCd=2392000234-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6-5かえでビル2F
訪問調査日	平成25年11月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1、私たちは、入居者の皆さんがいつまでも笑顔で暮らせる家になるようにお手伝いします。 2、私たち
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1)全ユニットに掲示してある。 2)定期的に朝礼で理念を再確認している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	1)散歩時にゴミ拾いをしている。 2)地域主催の行事に職員と共に参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域での地震や津波等、防災の避難所になっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族(代表)、入居者(代表)、自治会長、介護相談員、地域包括支援センター担当者に参加してもらい、2ヶ月に一度開催している。写真など紹介し、意見交換を行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護相談員が毎月の状況確認を行っている。また、運営推進会議にも出席してもらっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	1)対象となる具体的な行為を理解している。 2)日中(10時～19時)は施錠はしていません。 3)身体拘束委員会を開催している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	1)関連する研修に積極的に参加するようにしている。 2)常に管理者と職員間でコミュニケーションをとり、ケアの内容を確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	関連する研修に参加する様努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結の際には十分に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	1) 運営推進会議を行っている。 2) 家族とのコミュニケーションを良好に保つよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1) 職種別ミーティングならびに会議、委員会で職員の意見を吸い上げている。 2) “案件ノート”というものに、意見やアイデアを記入してもらい、定期的及び随時ミーティングを行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	1) 人事考課を行っている。 2) 業務の一環として各種研修へ参加を促している。 3) 希望する日に休みを取れる様、配慮して勤務シフトを作成している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	1) 専門知識向上の為、施設内で各種試験を実施している。 2) 各種研修への参加を後援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人内にグループホームが3施設あるため、情報の共有をしてサービス向上に繋げていけるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ゆっくりと会話をする時間を作り、不安なことや要望などを聞き出すようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に時間をかけて面談している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	老健、デイサービスなどのサービスについて説明し、グループホームが最善策であるか、検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居前の自立して生活していた頃の状態を把握し、食事の準備や洗濯など生活動作に関われる様に配慮した声掛けを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者と家族の関係に立ち入らぬよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出など、家族が来れない時は替りに行くようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話が生まれやすい様に職員が仲立ちするなどして配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	地域行事へ参加し、顔を合わせられる様努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の時間を多くとり、その中から聞き出せるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人及び家族に聞き取りし、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1)調理、掃除などの日常生活を行ってもらいながら動作を確認している。 2)記録を基にカンファレンスを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	こまめに家族や主治医と連絡を取るようにし、現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を基に、カンファレンスを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	業務をマニュアル化せず、柔軟に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の活動や行事に積極的に参加する様努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	馴染みのあるかかりつけ医院に受診している。また、各々のかかりつけ医とは詳細な情報交換が出来る様努めている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう、看護師に情報を提供し、アドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。その際、家族の希望をたずねている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	1)入居時に、重度化した際の家族の希望をたずねている。 2)実際に重度化の兆候が出現した場合にも再度、家族と相談している。 3)施設で出来る事を十分に説明している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に備えて、緊急対応マニュアルを作成し、職員に周知させている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	1)防災訓練を行っている。 2)運営推進会議でも、災害時の相互支援について話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特にスピーチロックに注意し、生活空間内で大声を出さない様、心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションをとり、傾聴することで、ニーズを引き出すように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一律の介護を行わないようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	1) 日々、着る物は本人の希望を聞いて選んでいる。 2) ネイルアートなど今の流行も取り入れている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	作業が出来る出来ないに関わらず、下準備から参加してもらえる様努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1) 食事摂取量及び水分補給量をグラフで確認している。2) 個別の注意点も把握し、支援している。3) 食欲がない時などは高カロリー食を提供するなどして一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケア、歯磨きの援助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1) 個々の排泄パターンを把握した声掛け、定期誘導を行っている。 2) 出来る限り本人が自立できる環境が作れる様、職員間で話し合い決定している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1) 下剤に頼る前に運動を促している。 2) 青汁、プルーンを提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1) 日中は体を動かせる場を作り、夜間は安眠できるように努めている。 2) 就寝時間は各々の生活リズムに任せている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1) 処方箋及び薬のデータをファイルに挟み、都度確認している。 2) 副作用による変化がないか、観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1) 炊事、掃除など役割を持ってもらうことで張り合いを感じてもらえる様支援している。 2) 嗜好品、趣味の活動を行える様支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	1) 希望者とは毎日散歩するようにしている。 2) 日常的に行きたい場所のアンケートをとり、順次叶えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布の持参も認めている。金銭管理も行っている。こづかい管理も行っており、外出時には小遣いをもっていく。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者からの希望があれば対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1)入居者間の相間関係を考慮した座席配置をしている。 2)四季折々の花などを活けて季節感を演出している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1)仲間単位で過ごせる様に留意している。 2)独りになりたい方は部屋で過ごす事を勧めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく御自宅で使用された物品で居室が埋まる様提案している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	行動を束縛せず、建物内を自由に動いてもらっている。		